

会議結果報告書

令和7年6月26日

会議の名称	令和7年度 第1回舞鶴市文化振興事業企画懇話会	
種別	☐ 附属機関 ☒ 懇話会等	
開催日時	令和7年6月24日（火） 19時00分 から20時30分	
開催場所	舞鶴市総合文化会館 研修室1	
出席者	<委員> 椿委員長、山本副委員長、山口委員、坂本委員、小谷委員 <事務局> 福田部長他4名	
議題	(1) 会長、副会長の選出 (2) 令和6年度の事業実績報告について (3) 令和7年度の事業計画について (4) 令和8年度の事業について (5) その他	
公開の区分	☒ 公開	
	☐ 部分公開	
傍聴者数	なし	
審議結果 及び 主な意見等	会議録のとおり	
会議録の作成様式	☐ 詳細 ☒ 要約	
備考		

担当課	舞鶴市 生涯学習部 文化振興課 TEL (0773) 66 - 1019
-----	---

令和7年度第1回舞鶴市文化事業企画懇話会 会議録（要約）

日時：令和7年6月24日（火）19：00～20：30

場所：総合文化会館 研修室1

出席：椿委員、山本委員、山口委員、坂本委員、小谷委員

（事務局）福田部長、森次長、横川課長、佐藤係長、森下

欠席：仲野委員

会議内容：

1. 開会あいさつ（生涯学習部長）
2. 委員および事務局の自己紹介
3. 会長及び副会長の選出（会長：椿委員 副会長：山本委員）
4. 議題：
 - （1）令和6年度事業実績について
 - （2）令和7年度事業計画について
 - （3）令和8年度事業計画について
 - （4）その他

【委員からの主な意見】

（1）令和6年度事業実績及び（2）令和7年度事業計画について

〈事業全般について〉

- ・市役所が知らない所にも良いアーティストがいる。視野を広げて選定を。
- ・例年継続実施している事業は変更できないのか。
→市の借り上げ事業は毎年変更している。
長年、継続して実施してきた事業については、事業スキームがしっかりしており、取り組みやすい。
- ・毎年変更している事業のあり方が重要。体験事業に関しても、プロのアーティストを招き、市民に「本物」を体感してもらいたい。
- ・以前、舞鶴にプロの脚本家を招き、舞鶴の写真から脚本を作り朗読劇を行うワークショップを実施した。舞鶴の魅力発見につながる良い事業だった。
- ・プロだけでなく、地元のアーティストに教えてもらう良さもあると思う。
- ・他ジャンルのアーティストを舞鶴に招き、一定期間滞在して芸術活動を行う「アートレジデンス」のような取り組みができると良い。「舞鶴に来たら面白いことができる」と思ってもらえると思う。
- ・プロのアーティストを舞鶴に招き、ワークショップや公演を通じて舞鶴の良さを知ってもらい、口コミで他のアーティストに広まり、自然と舞鶴にアーティストが集まるというサイクルができると良い。

〈中学校の部活動地域展開について〉

- ・実証実験に携わっている中で、保護者への浸透が不十分だと感じる。情報発信の工夫が必要。
- ・部活動にないジャンルの文化活動に触れる機会を提供したい。

〈事業を実施する上での資金的課題〉

- ・「文化芸術」分野において民間の収支だけで黒字経営をするのは難しい。
- ・行政と民間がうまく連携できるような仕組みづくりが重要。

〈他分野との連携〉

- ・アートと観光の「アートツーリズム」やアートと福祉など、他分野との連携により、多様な広がり生まれることに期待。
- ・スポーツと文化の区切りが曖昧。屋外スポーツとタイアップできたら良い。
- ・ちゃったスポーツの方々と連携できないか。

〈学校の授業との連携〉

- ・市内学校で実施されている「探究の時間」と連携し、子どもとアーティストや社会が繋がりを持てる機会を創出できると良い。加佐中学校での茶道体験は、お茶の産地ということもあり、子どもたちが熱心に取り組んでいた。

〈京都府の事業との連携〉

- ・京都府中丹文化事業団の「移動コンサート」や、京都府の「Music Fusion in Kyoto 音楽祭」をぜひ活用してほしい。

（３）令和8年度事業計画について

〈総合文化会館の活用に関する意見〉

- ・富山県砺波市で行われた市民ミュージカルは、発足時は小規模の市民活動だったが、後に市も支援に加わり規模が拡大。市内の文化会館の利用につながった成功事例だった。会館利用は本来こうあるべきであり、「人と人との繋がりを作ること」が重要。
- ・現状、文化会館の利用は「借りること」が目的になっている。「会館に行ったら面白い人がいる」というコミュニケーション作りができればよい。
- ・アーティストが集まり文化芸術について語り合う場があると良い。
- ・会館は敷居が高いと感じる人が多いため、積極的に地域に出向いて、文化や会館を身近に感じてもらえるようにすべき。

〈担い手の育成（子どもへのアプローチ）に関する意見〉

- ・音響や照明スタッフの高齢化が課題であり、若手人材の育成が必要。
- ・高校生が「『文化』という名前からして硬くて入りづらい」と話していた。言葉を『カルチャー』にするなど、文化芸術に親しんでもらう入口を軽くすることが、担い手増加につながると思う。
- ・「友の会」の案内や「文化情報だより」をポップな雰囲気にしてほしい。最終的に目に見えるビジュアルにはお金をかけてこだわるべき。

（４）その他

- ・次回の懇話会は8月頃を予定。